



ベトナムの悲劇から 各自は教訓を学べ

ラジモハン・ガンジー氏

- (1) 腐敗した指導者では民主主義は守れない。
支配者が自分達の安楽、権力に心を奮われ、統治される人の日常の必要を忘れてしまつては、憎しみに満ち、暴力に走り、独裁的な傾向をもつイデオロギーに答えることはできない。
- (2) いかなる援助も、それ自体では国を守ることはできない。
経済援助であれ、軍事援助であれ、それをこなすだけの真実と責任がなければ、役に立たない。
このような質がなくては、援助はかえつて仇になる。
- (3) ベトナムの人達は、できる限り共産主義の軍隊から逃れようとした。
彼等は憎しみにはぐくまれ、暴力によって力を得て、恐怖によって行われるような政治は好まない、ことを示している。
道義的、民主的な勇氣ある真の回答を、彼等は求めている。
ベトナムの苦しみは、少しでもわれわれの心を動かすならば、こうした真の回答をもたらすため、それぞれの国で努力しようではないか。



世界の危機に回答を

分裂への融和の道を

MRA世界大会開かる

本年度のMRA世界大会は、去る七月十二日より、スイスのコーのマウンテンハウスにおいて開会され、この大会には世界各国より各界の代表が参加して、真剣な討議が進められているが、大会に参加しているノルウエイの、イエンツ・ウイルヘルムセン君より、次のようなニュースがおくられてきた。

いま、スイスのコーで開催されている今年度のMRA世界大会は、特にアジアとヨーロッパの人々が会う重要な場所ともなっている。

大会開始と同時に、十日間の訓練コースも二回開講され、四百名の青年達がこれに参加した。この青年達は、日本をふくめた東南アジアの殆どどの国々を代表しており、しかもMRAの劇

「アジアの歌」のキャストとして活躍している六十名の青年達も加わっている。

又、アフリカ、オーストラリア及びアメリカの青年達も加わっているが、エジプト政府はカイロ大学の学生自治会委員長を団長に十五名の学生代表団をこ

れに派遣している。

デンマーク、ノルウエイ、スエーデン及び英国の青年達は、次の計画として、この秋に劇「アジアの歌」をそれぞれ自国に招待すべくその準備を始めている。

アフリカからの声

世界大会では、このような青年達の訓練コースのみならず、同時に色々なことが行なわれている。大会の開会式には、南アフリカの黒人及び白人の指導者、

回教社会三百万の有力指導者である北ナイジェリアの回教首長は、「MRAで教えられることは回教の教えと非常によく似ている。だから、MRAはすべての

宗教に適應でき得るので、我々を他の宗教と親しくすることを助けるだろう。」と語っていた。

このMRA世界大会の招待状には、次のように書かれている。「人類を飢餓から解放し、このかけがえのない地球の環境を保護し、すべての人々に十分な教育を与え、富と資源の公正な配分を保証すること。」

これらを現実のものとする事業には、私たちの献身的な努力が要求される。しかし、世界が紛争、恐れ、憎しみ及び偏見によって分裂している限り、決してこの大事業を成功させることは出来ない。

そのためには、人類が融和し、

緊張緩和もMRAから

ジュネーブの国連本部より出席した外交官は、東欧と西欧の

関係に新しい情勢を創るといふその試みの重要性に言及し、「東西の緊張緩和の方針は、東西を分けている高い壁を低くし、その扉の鍵をはずすようなもので、物事を正常に考えてみる人であるならば、誰でもそれに反対することはしないだろう。しかし、それが実現した後何が起るだろうか。MRA精神の無い緊張緩和は、思想を持っている東側の西側への浸透に助けてしまうようなものである。」

しかし、MRA精神による緊張緩和は、東西両側を共に変革するためのスタートであり、それは又、資源を解放し、食に飢え、家も職も無い世界の何百万

人かの人々の必要にも答えるものになるであろう。」

八月の初めヨーロッパ各地より作家、画家、俳優、音楽家及び他の芸術家達がこのコーに集った。この芸術家達は独創力、考えの深さ及び優れた才能をもつて大会に一段と活気と光を添えた。

各国の国會議員及び各分野の政治家達も八月十七日から二十七日までの十日間、この大会に参加する。その中には五名の埼玉県々會議員団も加わる。時を同じくして、各大陸の急進的な少数民族の代表達も集まる。例えば、北アメリカのインディア代表、北スカンディナヴィヤに住むラップ族の代表等である。

MRAは人類の希望の光

最後に、九月の第一週には、ヨーロッパの産業界の代表達が「今日の世界に貢献しうる産業界の適切な指導力」というテーマで、労使の代表をコーに招待した。これには各大陸から経営者、労働組合幹部の参加が予定されている。

このコーの大会の最も重要な意義は国籍、宗教、民族や政見を異にする者が集まり、お互にただ知り合うということではない。相手や相手国の態度や考え方が変わることを要求することよりも、先づ自分自身から変り始め、自国の変革の一翼をになうという、その基盤の上に立つて話しあうことである。

そして、誰でも、静かに聴くとき心の内なる声を聞くことができる。その高い啓示を共に求めることである。

或る人は「人間の知恵は我々の地球を苦しめている諸問題を解決することに失敗している。それらの問題の新鮮な解決方法のため、我々はけんきよに我々の内なる声に聴き従わなければ

ならない。そのみが人類の希望の光である」と語っている。

鶴田夫妻がMRA劇の開幕に先がけてステージから

「私は五〇年の間、電々公社並びに関連会社で働き、丁度定

年退職したところです。私は今まで自分の利益のみを考えて生きてきたように思います。しかし、このコーで日本やアジアそして世界のことを考えるようになりました。

明日、妻と私は日本に向けてコーを發ちますが、日本の変革のために闘います。日本にMRAの専従者が必要ですが、その

役割を引き受けるのは私たち夫婦だと思えます。私は定年退職後は安楽な生活を考えておりました。が、私は私の残る人生を他に奉仕することによって意義あらしめたいと決心しました。世界のために皆様と共に活躍できることを感謝しております。」

鶴田夫人も続いて話され、京都市より参加した大村治氏も明日日本へ向けて出發するが、どのようにしてインドでMRAに

会ったかまた、ヤミで両替をしたことを正直に謝罪し、その金を返した、という経験を話したあと「私は日本に帰って再び教壇に立つが、教師として学生達に正しい人生の目的を与えるために努力します。多くの学生は人生の目的を持っていない。その結果として、例えば自殺という悲惨なことが起っている」と語った。

当日は帰朝報告の他に、映画「MRA二十五年の歩み」、韓国代表の方のお話もあります。皆様のご参加をお待ちしております。

MRA世界大会

報告会ひらく

今年のMRA世界大会には、鶴田重蔵夫妻、住友義輝夫妻らが出席したが、これらの人々を迎えて報告会を次の要領で開きます。

日時 九月十二日 午後六時

より

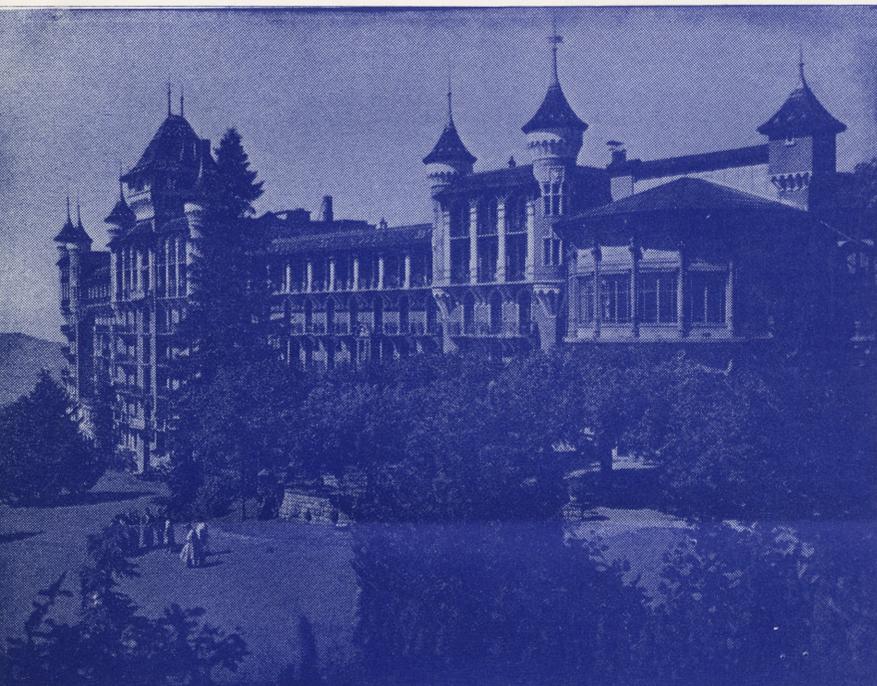
場所 日本工業クラブ

一階大ホール

東京都千代田区丸の内

一ノ四ノ六

(東京駅丸の内北口より徒歩約二分)



長男の潤が、ロスアンゼルス
の東方約百二十キロのレッドラ
ンド・ユニバシティのマスター
・コースで勉強中なので、家内
同伴、職員五名と共に、東京を
出発したのが七月二十六日であ
った。

シヤトルに直行し、サンフラ
ンシスコに向かい、ヒルトンホ
テルに一泊し、七月二十八日に
ロスアンゼルスに着いたのが十
二時半であった。早速むすこを
呼び出して、山崎さんから御紹
介いただいたMRAのメンバー
である三谷様に電話をしたら、
残念ながら御旅行中とのことで
お会いできなかつた。

その夜はハイヤット・リジエ
ンシーホテルに一泊し、レッド
ランド・ユニバシティの哲学の
教授で長男が直接指導を受けて



いる、アトキンソン教授の自宅
を訪問した。

先生は同大学のサマーセクシ
ョンを受け持っておられ、イン
ターナショナル・エジュケーシ
ョンの推進者でもあり、日本に
も六回程お見えになって大変な
親日家である。

おやしきの飾り物が日本の軸、
屏風、花瓶等、調度品の瀬戸物

・コースで御勉強中とのことで、
間もなくドクター・コースの完
成に近づいておられると聞いた。

アメリカの徹底した生涯教育の
一端を知り得て深い感動を覚え
た。

MRA運動のお話を申しあげ
たところ、よく御夫妻とも存じ
ておられ、会員にはなっておら
れなかつたが、同席の二十一回

の二十六倍、延々としてつながら
るアメリカ大陸の大きさに触れ、
東海の小島の日本の貧しさを考
えさせられた。

新しい自由の国アメリカにも
問題は多い。アメリカ独立のく
さびを打ちこんだ、当初のアン
グロサクソンの特権階級意識、
あちこちに見られるエクジエキ
ューティブ・オンリーの差別的

アメリカに旅して

全日本私塾協会 会長
日本学習能率研究会会長

西川四郎

類までが、全部日本のもので懐
しいことであつた。

先生の研究対象が私と同じ哲
学でドイツ哲学から始まって禅
の話にも及び蘊蓄の深いお話し
に時の流れるのを忘れて話し込
んだことであつた。

六十近い奥様もなかなか篤学
な方で、現在夏の特別講習にも
参加され、長男と同じマスター

日本をお訪ねになつたという老
教授も話に乗つてこられ、MR
A運動の国際性を今更のように
認識させられ、心暖まる炉辺談
話であつた。

来年、独立二百年祭を迎える
アメリカ、まさにライジング・
ネーションともいうべきアメリ
カの躍動するエネルギーを至る
ところまで感じ、日本の国土

立札にみられる階級闘争の現実、
カリフォルニア大学の哲学徒の
中から興つたヒッピー思想も、
その本質を離れ、これら特権階
級に対する反発が庶民の間に浸
透したものととして発動している
面がある。

白昼堂々と町中のストリート
・カーのなかで強盗が行われた
り、大繁華街の裏通りで陰惨な

犯罪の実力行使が発生している
事実など、根本的なモラルの欠
乏は、全世界を覆っていると思
われる。

時を同じくして起こつた、日
本赤軍によるクアラルンプール
米大使館の占領事件など、世界
を震盪させる日本人青年による
クレージーな海賊行為は、我等
教育に従事するものの責任を問
われているもののように思われ
る。

十日間余りの短いアメリカ滞
在ではあつたが、深く、新しい
モラルの再建運動の必要性を痛
感したことであつた。

日本人の一人一人が各々の立
つ所において、新しい己を発見
し、己の中に埋没されている新
しい感覚を喚起して、日本のM
RA運動を展開したいものと覚
悟を新たにすして、帰国したこと
であつた。

お知らせ

現金書留で送金する場合は
〒151東京都渋谷区代々木一
三 八三ミヤタビル七〇五
本郷富士子宛
としてお送り下さい。